

5月議会（5月10日開催分）**竹バイオマス事業自主返納予算取り下げについての質疑**

栗原議員 社会一般のルールではお金を借りたところが返すべき。3億円分の機械が鉄屑にしかなくても竹資源開発(株)を法的に訴えてお金を返してもらうべき。町が責任を取るのはその後。会社は3億円の返還に関して何回約束を破ったか？

山本町長 何回かは覚えていないが現在返っていない。

栗原議員 13億円の融資や投資の話もあった。御船町民に迷惑をかけ、町を傷つけた会社をなぜ訴えないのか。

山本町長 訴えたいのはやまやまだが、町民のことを思うと全てを中止するよりルールを守って返す方がよい。近づいてはいるが、会社が止めることを言っていない。

栗原議員 会社は工場用地もなく、工場もなく6億円の借金を作っただけ、融資も投資も3億円の返済の約束も破った。この会社を応援する根拠は。

山本町長 100%失敗していない。可能性がある。町が国に3億円を返したら、会社が頑張らなければならない。チャレンジする気持ちが大切。

栗原議員 町が3億円返したら、会社からお金を返してもらうために会社を潰せなくなる。どこまで町が応援していくか分からない泥沼に陥る。また、可決したら議会の責任になる。本来の竹林整備も進まない。正しい情報を持っている人は現在の会社が3億円を返せない状況であることは、理解できる。それが町長には通じない。

山本町長 いろいろな考えがある。期待している人もいる。少なくとも私は信じている。

藤村議員 町長が責任をとらないので、どこにも落ち着かない。議員は議決した時責任が発生する。補助事業の進め方の見直しを考えていかなければならないと反省している。3億円の自主返還を今通したら、責任が議会にかかってくる。町長が謝って責任をとったら3億円の返還も考えていかなければならないと思う。

山本町長 失敗したらそうする。町民の負担を軽くするためには入れてもらうことだと思う。

藤村議員 何度も裏切られておきながらなぜ会社の側に立つのか。会社側に立つのではなく、町民側に立つてもらわなければ解決しない。政治家なら今、町民に判断が甘かったと謝って「3億円の予算措置させてほしい。責任を取る」といべき。マニフェストで一番重要な正しい情報公開をする為に、議会で答弁する時は裏付けをして答えるべき

山本町長 否決したら3,700万円相当の利子がくる。会社側が死活問題。受注業者も困っておられる。会社の説明を聞くことが先と思う。近々上程する時期がくると思う。

藤村議員 町民に謝るまで補正予算を上程しないではない。

山本町長 分かりやすいのはお金を入れてもらうこと。

藤村議員 まず、謝罪することが責任を取る事。責任を取らないから企業の方に逃げているように見える。

山本町長 会社に来てもらって、終着を考えていく。国は、否決されれば補助金適正化法を適用しなければならないと言っている。終着点を求めていく。

藤村議員 企業誘致ということで真っ先に飛びついた。調査期間がなかった。交付金を会社に渡す時の確認の甘さ等々の問題がある。町政を混乱させてきた責任を取る勇気をもたなければならない。

吉村議員 町民も今回の事業に対しては反対が多い。竹資源開発(株)とは関係を切ってもらって、本来の目的である竹林整備の事業を新たにやってほしい。

山本町長 いろいろ問い合わせはある。竹は課題。合わせてやってみよう。

田端議員 町政座談会においての町民の反応はどうだったか。

山本町長 どうなっているのかという率直な質問があった。一区切りついたところで、町民に製品等を見ていただくのもいいかなと思っている。

田端議員 今後も竹資源開発(株)を応援していくか。

山本町長 町が支援しなければ事業が成り立たない。会社があきらめないかぎり応援する。

田端議員 製品の販売先の確保があっているのか。

山本町長 製品ができれば売る、カタログに載るまで努力すれば売れると会社から聞いている。

田端議員 会社がした話を信用してきたということだが、なぜこのような事態になってしまったのか。バイオマスタウン構想書の委託先は。委託料は。代表は日本有機資源協会認定のバイオマスアドバイザーか？

竹下企画財政課長 NPO 法人鹿児島環境資源ネットワーク。理事長若松新敏。682万5千円。

田端議員 竹資源開発(株)の代表は誰か。

竹下企画財政課長 別役武。

田端議員 代表が変わった理由は？

竹下企画財政課長 聞いていない

田端議員 別役氏は出資しているか。

竹下企画財政課長 個人ではないが、別役氏が役員をしている環境資源開発(株)から10万円の出資がある。

田端議員 バイオマス構想から竹資源開発(株)に至るまでNPO 法人環境資源開発研究所が関わっている。6億円の製品は出来高検査でそれだけの価値があるものと確認しているか。

竹下企画財政課長 出来高ということで確認してある。

田端議員 国の事業は中止の申し入れがあっており終わった。これから先は新たなことになる。執行部としては、会社を信用する、成功させると言っているので議会も判断に苦しんでいる。負担したのは3億円だけではない。この事業に関わってきた人件費の問題がある。熱意があるから大丈夫だとの判断は難しい

山本町長 熱意はエネルギーになるので大切だと思う。倒産する会社と成功する会社はどこが違うのか見極める